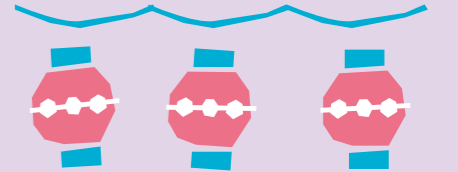


パートナーシップで進めるまちづくり

京まち工房 58

京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

特集 賀茂葵コミュニティ



まちづくりイベント
景観・まちづくり大学

まちづくり報告
地域の支援・活性化事業
広がっていく、景観・まちづくりの交流
暮らしを伝え、地域の景色と人をつなげる
京町家まちづくりファンド 改修助成事業のご報告
新公益財団法人制度とは

コラム
私と京都
スタッフのつぶやき

<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

まちがいさがし

A・B 2つの絵に間違いがあります。
いくつあるかお答えください。



A

正解者に抽選で5名の方に
「京がいまむかし彩色写真館」
ポストカード (12枚組) をプレゼント。

はがきに答えと住所・氏名・
連絡先を書いて下記住所まで

2012年5月31日当日消印有効。

財京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127

京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町
83番地の1ひと・まち交流館 京都 地下1階



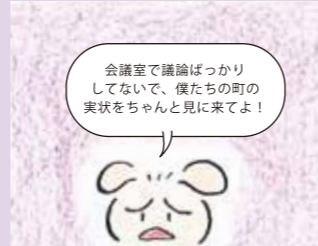
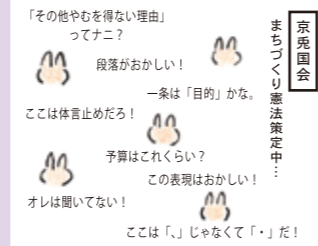
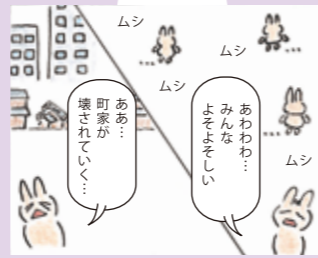
B

京まち工房57号
まちがいさがしの
答えは「6つ」で
した。(左図参照) 当選
者は、プレゼント
の発送に代えさせ
ていただきます。

1. 飛行機
2. 提灯の文字
3. 羽子板の羽
4. 和傘
5. マチ右衛門の顔
6. 景都の顔

京兎物語

ペンネーム ひこ



賛助団体

株式会社 ゼロ・コーポレーション / ローム株式会社 / 株式会社地域計画建築研究所 / 都市居住推進研究会 / 社団法人 京都府建築士事務所協会 / 株式会社ジェイアール西日本伊勢丹 / 大阪ガス株式会社 / 株式会社フラットエージェンシー / 京都駅ビル開発株式会社 / NPO 法人マンションセンター京都 / NPO 法人京滋マンション管理対策協議会 / 平安建材株式会社 / 修徳自治連合会 / 有隣自治連合会 / 学校法人瓜生山学園 京都造形芸術大学 / 株式会社 八潮 / NPO 法人 古材文化の会 / 社団法人 京都市観光協会 / ミサワホーム近畿株式会社 / 一般社団法人相続相談センター / 立命館大学歴史都市防災センター / 六原学区自治連合会 / 一般社団法人京都府不動産コンサルティング協会 / 京町家居住支援者会議 / 松ヶ崎学区自治連合会 / 桂坂学区自治連合会 / 株式会社 マーブル / 京都市建築協定連絡協議会 他

賛助会員

相原 満 / 青木 巖 / 青木 義照 / 秋山 智則 / 秋山 正俊 / 東 恵明 / 天利 義一 / 荒金 博美 / 安藤 文智 / 生駒 勲 / 石川 貴洋 / 石原 哲夫 / 石原 久子 / 伊藤 真嗣 / 伊藤 正人 / 稲石 勝之 / 稲波 良幸 / 犬伏 真 / 井上 信行 / 今富 僚二 / 岩崎 清 / 岩崎 亘男 / 上田 菜穂 / 上原 智子 / 浮田 勝 / 江田 頼宣 / 大谷 孝彦 / 岡崎 篤行 / 岡田 圭司 / 岡山 尚義 / 小河 亜紀子 / 奥美里 / 押谷 昌成 / 景山 良一 / 笠岡 英次 / 桂 豊 / 加藤 昭 / 門川 信一郎 / 狩野 文博 / 上久保 聡子 / 亀井 孝郎 / 川上 輝夫 / 河崎 尚志 / 河邊 聡 / 上林 研二 / 北川 洋一 / 東海 賢一 / 木村 繁 / 木村 忠紀 / 木村 真紀子 / 桐澤 孝男 / 黒木 省二 / 黒田 聡子 / 桑原 尚史 / 古賀 芳智 / 小西 吉治 / 小林 正純 / 小林 正孝 / 酒井 英一 / 坂本 登 / 坂本 正寿 / 相良 昌世 / 佐竹 和男 / 佐藤 七重 / 佐藤 洋 / 佐藤 友一 / 真田 松寿 / 澤本 彰三 / 柴崎 孝之 / 島田 和明 / 清水 博之 / 杉浦 伸一 / 炭崎 勉 / 関野 孝緒 / 園 孝裕 / 醍醐 孝典 / 高川 祐子 / 高木 勝英 / 高木 伸人 / 高室 悟子 / 高谷 和代 / 高谷 基彦 / 田中 理世 / 谷口 功尚 / 多見 貞子 / 谷本 真也 / 出崎 恵理 / 寺田 恵子 / 寺田 敏紀 / 寺本 健三 / 富家 裕久 / 富山 育子 / 内藤 郁子 / 中川 慶子 / 長崎 愛 / 中沢 洋雄 / 中島 吾郎 / 中島 弘益 / 中司 小百合 / 仲西 弘樹 / 中村 有希 / 中山 雅永 / 西澤 亨 / 西嶋 洋 / 西島 篤行 / 西村 健 / 齒黒 健夫 / 畑 正一郎 / 旗 哲也 / 早崎 真魚 / 林 建志 / 林 道弘 / 東野 嘉之 / 平竹 洋子 / 吹上 裕久 / 福島 正俊 / 福林 文孝 / 藤田 洋史 / 藤村 知則 / 藤本 春治 / 船橋 律夫 / 古川 耕一 / 古川 英志 / 平家 直美 / 堀 有輝子 / 本田 徹 / 松田 彰 / 松本 正 / 三島 時夫 / 溝上 省二 / 宮本 日佐美 / 元持 清 / 森田 弘之 / 柳原 博實 / 山田 昌次 / 山本 一博 / 山本 耕治 / 山本 茂 / 瀧浅 博央 / 吉田 純 / 淀野 実 / 米谷 朋恵 / 和田 豊志 / 他

京都市景観・まちづくりセンター

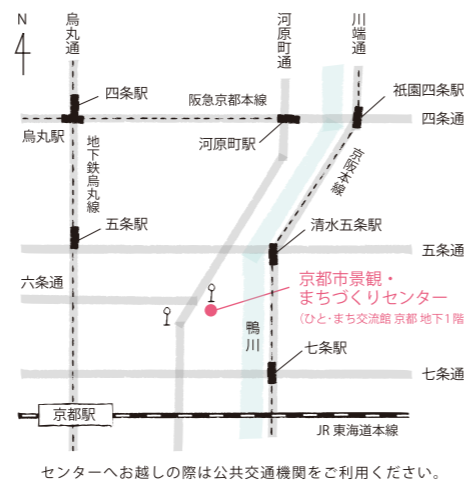
〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階

TEL : 075-354-8701 FAX : 075-354-8704
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

開館時間
平日・土 9:00 ~ 21:30
日・祝 9:00 ~ 17:00

休館日
毎月第3火曜日 (国民の祝日にあたる時は翌日)
年末年始 (12月29日 ~ 1月4日)

交通系統
バス 市バス 4・17・205号系統「河原町正面」下車
電車 京阪電車「清水五条」下車 徒歩 8分
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩 10分



マチ右衛門 Twitter



京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

特集

洛北の地から、地域連携のまちづくり 賀茂葵コミュニティ



あおい地球まつり（フラワーフェスティバル）

洛北地域、北区から左京区にまたがる京都市北部のエリア。この行政区を超える広域な地域において、多様なまちづくりの主体が連携し、地域全体の活性化を目指そうというネットワーク団体「賀茂葵コミュニティ」のご紹介です。

（京まち工房48号掲載）



賀茂葵コミュニティとは

歴史的景観に育まれた京都市北部地域における情報交換と活性化を目的に、自治連合会・商店街・大学・文化施設・NPO・企業・行政など産官学の幅広い団体（約30団体）が集合したネットワークです。2008年10月に発足し、主に地域情報の共有と、地域内における環境・文化を軸としたまちづくり活動による地域活性化を目指してきました。センターは、世話人会の一員として支援しています。



特徴

「環境と文化」を軸に

洛北地域の持つ豊かな自然資源や世界文化遺産も含む歴史・文化資源を生かし「環境と文化」を軸に、地域全体の活性化をめざしています。

緩やかなネットワーク型コミュニティ（ヨコのつながり）

行政区（北区・左京区）を超えた地域資源・情報の共有を図っているネットワーク型コミュニティといえます。各団体間の壁を越えた活動を行いつつ、緩やかにつながりながら、軸足は「地域」に置いて活動を行っています。

活動内容

- 関連参加団体を集めた定例会を実施。定例会は毎月1回 → 情報・意見交換を含め、人が会う機会として活かされています。
- 交通環境ワーキング（2010.06 発足）
- 観光ワーキング（2011.10 発足）
- 各種取組・イベント（あおい地球まつり、葵遣、あおいポスト、葵ねぶた等）



定例会の様子

各種取組のご紹介

賀茂葵コミュニティでは、年に1回の「あおい地球まつり」をはじめ、様々な取組・イベントを実施しています。



イベント

あおい地球まつり

2011年10月8日、北山界わいを舞台に賀茂葵コミュニティをはじめ、多様な団体が連携して開催されました。



北山ミュージックフェスティバル

北山フラワーフェスティバル
北山通り沿いに花の苗4000potを設置、花壇の清掃活動。地域の環境づくりを目的に、地域の参加者と協力して実施。

北山ミュージックフェスティバル
北山街6カ所で演奏を行い、音楽で溢れる通りへ。

1000人の笑顔の庭
地域の子どもたちの笑顔溢れる写真を布に転写して掲げ、北山通りを彩る取組。1300人の笑顔の花が咲きました。



1000人の笑顔の庭

子どもアートワークショップ
子どもたちに、多彩なアートに触れあう機会を提供する取組。

ワーキング

交通環境ワーキング

定例会での「地域の交通事情が悪い」といった交通や環境問題に関する意見を受けて、京都府立大学をはじめ、4大学の研究者に協力していただき、交通環境ワーキングを立ち上げ、課題解決に向け取り組んできました。そして、2011年夏に住民の方を対象に7,111票のアンケート調査（内容は、町内会加入の有無、交通問題に対する意見、地域行事への参加状況など）を行いました。これらの結果を地域の方々と共有し、具体的な動きにつないでいく予定です。（結果は、賀茂葵コミュニティのHPにも掲載しております。是非ご覧ください。）

<http://www.kamoaoi.net/>

観光ワーキング



地域に根ざした地域固有の資源を最大限に活かす観光の在り方を考え、実践することで参加団体をはじめ地域全体が、そのメリットを享受する仕組みづくりを行うためのワーキングを、2011年10月に立ち上げました。まずは、地域資源の1つとして「食」をテーマに取材・コンテンツ作成を進めているところです。これらの情報は、Facebook等のツールによって公開される予定です。

継続する活動へ向けて

今後は、地域の住民の皆さんや多様なまちづくりの主体の参加の輪をさらに広げ、交流を深めていくことが、賀茂葵コミュニティを継続的な活動にするために必要になるかと思えます。そのためには、分かりやすいテーマ設定によって誰でも参加しやすい環境をつくっていく一方で、専門的な知識を持った方々にも参加していただき、「行政区を超えた」連携によって、地域課題を、一歩ずつ解決していくことが大事になってくるのではと感じています。そして、これからも地域の住民や地域を訪れる人たちと交流し、意見交換・実践を続けていきたいと考えています。

景観・まちづくり大学

Landscape and community collaboration university



景観・まちづくり大学は京都のまちづくりに関心のある人々が集い、語り、交流する場です。共に学び、共に育つことを目的としています。

京のまちづくり史セミナー

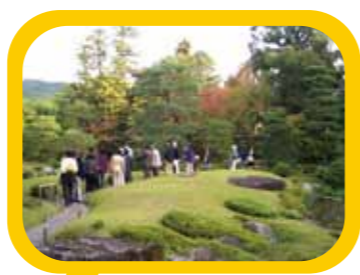
第5回 11/12 (土) 開催

京の緑の庭めぐり ①

—生活文化・庭園文化が生んだ借景の演出—



講師 尼崎 博正氏
(京都造形芸術大学教授、日本庭園・歴史遺産研究センター所長)
会場 無鄰菴



無鄰菴の趣あるお座敷にて京都造形芸術大学の尼崎博正氏に東山山麓の庭園文化についてお話をいただきました。その後、紅葉が始まりかけたお庭に出て、先生にご案内いただきながら散策しました。

無鄰菴は明治 27 年から同 29 年にかけて山縣有朋の別荘として造られました。もともと京都市の借地でしたが、この界隈を別荘地にふさわしくしようと山縣のような文化人を東山に招聘したのです。今でいう「まちおこし」や企業誘致と同様の発想でしょう。京都の近代化では東山の風致も重視され、今日の東山の景観は都市開発と風致の保全を共存させようとする意識があつてこそ形作られてきたと言えます。

京都の人々にとって東山の眺望を親しみ深い存在としているの

は、岡崎・南禅寺界隈の庭園群のように東西軸を基本として建物を西に設える伝統的な空間構成です。無鄰菴のお茶室には、東山を眺望する欄干付きの縁が造られていて、周辺景観と庭との一体化を図ろうとしていた意図が見てとれます。

当時の山縣の思想には煎茶の影響があつたのでしょうか。豊臣秀吉以来、権力と結び付いた抹茶とは対照的に、生活に根ざして自由に楽しむ煎茶が幕末から大正にかけて爆発的に拡がる中、無鄰菴は東山大茶会で煎茶席となります。煎茶の空間としていかにふさわしかったことなのでしょう。無鄰菴は東山の眺望・借景と文化的状況が絡み合いながら、新しい庭園のあり方を提示し、今日にまで明治の時代性と哲学を引き継いでいるのです。



第6回 1/21 (土) 開催

京の緑の庭めぐり ②

—想いを継承し進化させる作庭—

講師 小川勝章氏 (作庭家、造園 植治)
会場 京都会館、平安神宮神苑



作庭家の小川勝章氏をお招きして、京都の庭園文化に受け継がれてきた作庭の技術や精神についてお話をいただきました。また生憎の雨も恵みの雨、平安神宮の神苑にて、庭園や建物での立ち位置や視点を意識して、庭園との対話を愉oshimしました。

庭造りとは元々地球にあったものを用いて新たな地球を造ることです。庭園のそれぞれの要素を繋げて一体としていくことが大切です。樹や石や水のみならず、人の心を繋げる事こそが何よりも求められます。樹を植えたり石を据えたり水を流したり山を造ったり、生きているものを有難い素材として、自然への憧れを庭園に託しているのです。

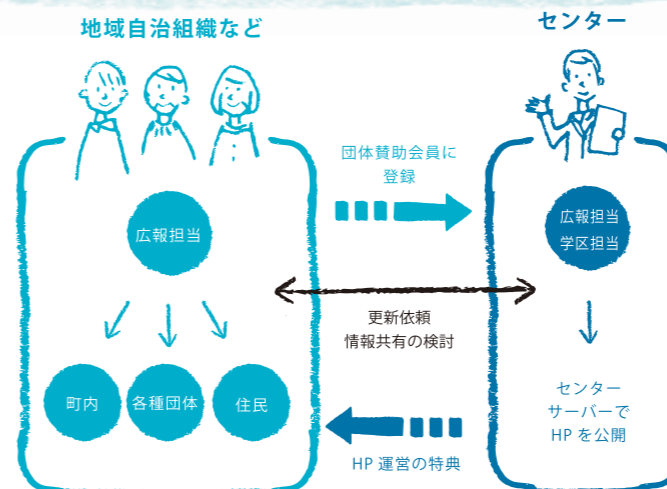
自然の樹は太陽に向かって高く伸びて、太陽ばかりに見せている良い表情が人の視点からは見えません。高い枝葉を剪定

して下枝に光を当てると、人の目が届くところで樹がにっこり笑うようになります。

飛び石も見るだけで「渡ってみたい、歩いてみたい」という雰囲気です。その石の風合いや雰囲気によって、人の体や心、そして視線が誘導されていくのは誠に不思議な感覚です。プラカードがなくても、石の上に立てば「ここから見て下さい」と全て教えてくれるのです。

人間関係と同様、庭園も愛してみたら嬉しいはずですよ。手間暇をかけた交流を通じて、ただの花や庭園ではなく、家と庭で「家庭」という言葉が表現されるように、美しい庭園には掛替えのない想いや出来事が沢山託されています。

地域の支援・活性化事業



地域のホームページ運営支援

平成20年からセンターでは団体賛助会員である自治組織に対して、会員特典としてホームページの運営支援をしています。各種団体の規約や取組、地域の歴史・史跡の紹介など地域のニーズに合わせた情報発信のお手伝いをしています。
(京まち工房 47号掲載)



2012年3月現在、有隣学区、修徳学区、六原学区、松ヶ崎学区、桂坂学区、京都市建築協定連絡協議会の6団体のお手伝いをしています。

京町家まちづくり調査 その後…

平成 23 年度 文化財候補建造物への 往訪及び調査事業

センターでは、京町家等の保全・再生・活用に尽力されている市民団体、職能団体等と連携を図り、京町家まちづくり調査の調査員から地域の景観に寄与していると推薦された京都市内の戦前の建造物約 550 件の所有者・居住者に、直接、支援制度の情報提供や、継承上の悩み等をヒアリングするために往訪活動を実施しました。この事業は、活動を通して建造物所有者へ継承への積極的な支援を図る事を目的としています。



京都市全域の地図に、対象建造物をマッピングし、ルート等を検討。

往訪実施の前に今回の事業の案内、各種支援制度の資料、承継に関する意識調査アンケート等を対象建造物の所有者・居住者宛てにポストインまたは送付。

事業の主旨、活動における留意点の説明、各種支援制度(景観法、文化財保護法、京都市条例等)の研修を実施。(11/24)

一般ボランティア、京町家専門相談員、センタースタッフの1チーム3人編成で延べ128人が参加。所有者・居住者にアプローチ。(11/27~12/24)

一般ボランティアや専門家から所有者・居住者の方へ直接、共感や、称賛の言葉を伝えることができ、京町家の保全・再生・活用の取組を知っていただく事ができました。現在、所有者・居住者からの積極的な相談希望をいただいた約100件については引き続き、京町家なんでも相談、建物調査等の対応をしています。

この事業は平成 23 年度 文化庁 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業の補助を受けて実施しました。

広がっていく、景観・まちづくりの交流

センターは1997年に設立されてから景観・まちづくりに関する啓発・情報提供、相談、学習・研修、活動支援、交流促進、研究・開発、センターの管理運営の7分野の事業に取り組んでいます。今回は他団体との連携や交流、人材育成の取組についてご紹介します。



三都市センター・建築学会連携

神戸、大阪、京都の三都市では、住環境の維持・創造、住民同士のコミュニティに関する課題解決等を進めるため、市民の住まい・まちづくりを支援する仕組みが各都市の特徴や地域性に依拠して整備されています。(下記のセンター紹介参照)

日本建築学会の住まいづくり支援建築会議による呼びかけをきっかけに、市民向けの相談や支援などの類似業務を行っているセンター同士で連携を行うことになりました。各都市の住まいづくり・まちづくりの経験やノウハウを交流し、それぞれの都市における課題解決に生かそうという試みです。

現在、三都市のセンターと学会は連携して、センター同士だけでなく、市民・事業者のネットワークが都市を越えて広がることも目指し、情報交換やシンポジウムの開催を行っています。



三都市連携シンポジウム



海外連携

ワールド・モニュメント・ウォッチ (アメリカ・ニューヨーク)

ワールド・モニュメント財団と連携し、京町家の魅力と現代的価値を海外に発信することで、海外の諸支援団体とのネットワークの形成を図ります。(京まち工房 57号掲載)

京町家アーティスト・イン・レジデンス (オランダ・アムステルダム)

日蘭文化交流を目的にアーティストを迎え、京町家を滞在拠点として紹介するとともに、創作活動を発表する機会の提供や地域との交流に関する支援を実施します。(京まち工房 57号掲載)

世界歴史都市会議

1994年4月に京都市で開催された第4回世界歴史都市会議において「世界歴史都市連盟」が発足しました。「歴史都市の保存と開発」という歴史都市が直面している課題の解決を目的とし、歴史都市という共通の絆で結ばれた都市が、日常的な交流を促進するための世界的な都市間組織です。センターでは第13回フエ開催の会議に出席し、京町家の保全の取組について海外に発信します。(第12回奈良市開催は京まち工房 53号掲載)

世界歴史会議開催地一覧

- 1 第1回 (1987年): 京都市 (日本)
 - 2 第2回 (1988年): フィレンツェ (イタリア)
 - 3 第3回 (1991年): バルセロナ (スペイン)
 - 4 第4回 (1994年): 京都市 (日本)
 - 5 第5回 (1996年): 西安 (中華人民共和国)
 - 6 第6回 (1998年): クラクフ (ポーランド)
 - 7 第7回 (2000年): モンペリエ (フランス)
 - 8 第8回 (2003年): モントリオール (カナダ)
 - 9 第9回 (2005年): 慶州 (大韓民国)
 - 10 第10回 (2006年): パララット (オーストラリア)
 - 11 第11回 (2008年): コンヤ (トルコ)
 - 12 第12回 (2010年): 奈良市 (日本)
 - 13 第13回 (2012年): フエ (ベトナム) 予定
- <http://www.city.kyoto.jp/somu/kokusai/lhcs/>



各都市センター

京都市景観・まちづくりセンター



市民団体、職能団体、行政等と連携しながら住民による地域自治の取組や、京都のまちなみに調和した土地利用の促進等、景観・まちづくりに関する相談、専門家派遣や活動の助成、各種セミナーやシンポジウムを実施。景観整備機構全国第一号。

<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

大阪市立住まい情報センター



1999年設立。住まいの相談対応や情報提供、「住ままち・大阪」の魅力情報の発信を総合的に実施。「住まいの歴史と文化」をテーマとした日本初の専門博物館「大阪くらしの今昔館(住まいのミュージアム)」では江戸時代の大坂の町並みが再現され、季節ごとに催しが開催されている。住まいや大阪に関する図書を集めたライブラリーも充実。

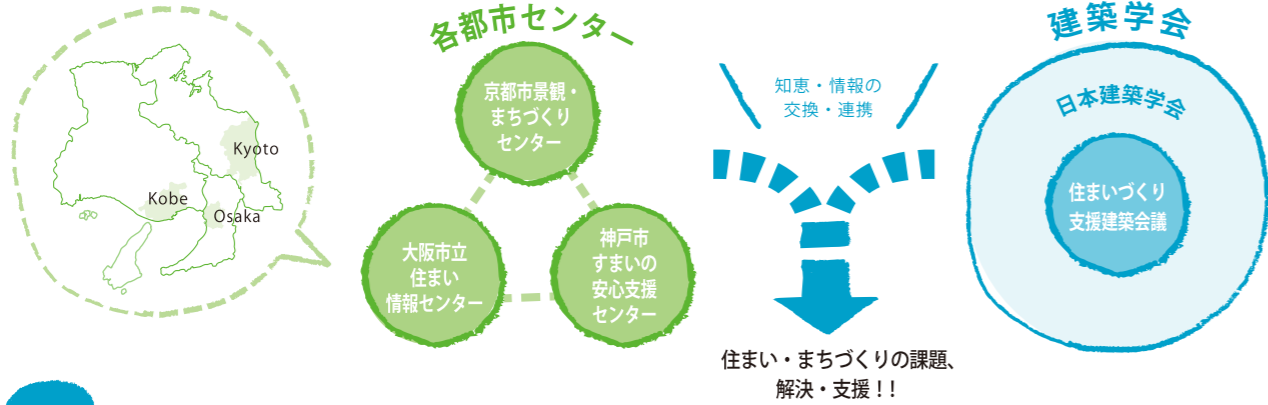
<http://www.sumai.city.osaka.jp/index.php>

神戸市すまいの安心支援センター



2000年設立。愛称「神戸すまいるネット」。住まいに関するさまざまな相談について、建築士・消費生活相談員・ファイナンシャルプランナーの「すまいの相談員」が無料でアドバイス。セミナーや物件情報の提供、マンション管理や耐震化の支援にも取り組んでいる。

<http://www.smilenet.kobe-jk.or.jp/>



建築学会

社団法人 日本建築学会 住まいづくり支援建築会議

2006年設立。「住まいの理念」を探求し国民に発信していくため、「よい住まいづくりに関する支援と情報発信事業」や「住まいづくりとまちの融合を啓発する支援と情報発信事業」等を行っている。これから住まいを購入しようとしている方、すでに住んでいる方に対しては、住まいネット相談で、直面する問題の解決を支援している。

<http://news-sv.aj.or.jp/shien/s2/index.html>

近年の活動

2008

各都市のセンターの情報交換と「住まい」をテーマにした市民講座を各都市で共催。「見直そう! 京のすまい」等、全4回開催

2009

「水」と住まい・まちづくりをテーマにして、まちあるきと市民レベルの連携を視野に入れたシンポジウムを共催。

2010

各都市の路地をテーマにした「三都市の路地をそぞろ歩き」まちあるきを実施。事業者の目線からの「地域の個性を活かした住まい・まちづくり」のシンポジウムを京都で開催。

2011

地域で備える「減災」まちづくりのシンポジウム開催。特性に応じた様々な「減災」の取組を行っている各都市の事例を紹介し、意見交換を行った。



人材育成



「京のまちかど」展示ボランティア研修

京都のまちの歴史を学べる展示施設「京のまちかど」をご案内するボランティアさんはセンターを訪れるみなさんに、より京都のまちを知っていただくため、日々勉強会や研修を行っています。(京まち工房 56号掲載)



インターンシップ

2011年度、景観保全やまちづくり活動を勉強されている大学生・大学院生4名が、インターンとしてセンターのまちづくり支援活動やセミナーに参加し、実地研修をされました。油屋さん、永野さん(立命館大学)、丸岡さん(京都造形芸術大学)、西嶋さん(京都府立大学)

教育番組取材協力



研究生や海外との情報交流

修学旅行生や海外からの研修生、他市町村で活動するまちづくり団体、行政機関から約400名の方がセンターに研修に來られ、京都の景観まちづくりの先進事例について情報交換を図りました。



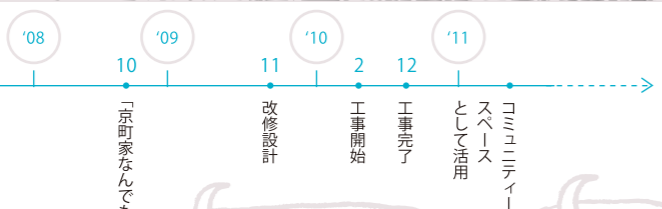
海外からの視察対応

京都市内	3 団体
近畿	4 団体
中部	5 団体
東北	2 団体
北海道	1 団体
海外	8 団体 他

2011年度 視察団体数 (2012年2月現在)

暮らしを伝え、 地域の景色と人をつなげる

これまでの道のり年表



改修の参考にした古写真

「町家所有者・居住者の集い」とは…?

町家をお持ちの方やお住まいの方、これから住まれる予定の方などが集い、町家とおつきあいの方法や課題解決のヒントを見つけていこうとする試み。年数回、町家の見学や座談会、ペンガらし体験などを行っています。

家の見学など、積極的に情報収集。「町家所有者・居住者の集い」などにも参加しながら、改修イメージをつくられていった

地域や仲間の集う、コミュニティスペースとして活用されるように

現在の外観

大切にしたい、地域の文化

北に京都御所の堺町御門をのぞむ堺町通。数十年前まで、井山さんのお住まいの辺りは問屋さんや工場など大きな町家の並ぶ地域でした。マンションやビルが建ち環境が急速に変化する中、明治初期に建てられた町家で生まれ育った井山さんは、「大切に想ってきた地域の文化がなくなってしまう」と、お住まいを町家らしい姿に戻して活用することを決められました。



美しい坪庭



改修前の様子

屋根や外壁の修繕を丁寧に行い、「たくさんの方が楽しく使える、多目的なスペースをつくりたい」という想いから、表側の棟はひとつの大きな空間にしてギャラリーに、トオリニワをフリースペースに、和室はそのままの美しさが活かされています。

古写真を参考に改修

井山邸は、明治11年から14年にかけて建てられた元蚕糸問屋の商家です。元々は、山形で栽培された紅花を扱う卸問屋で、事業の拡大とともにこちらの町家が建てられ蚕糸や生糸を扱うようになったそうです。建物は表屋造と呼ばれる大きな町家。昭和21年には事業の関係で格子をはずしてガレージを設け、中が見えやすい様大きなガラス窓を入れるなど改変されました。

今回改修するにあたり、大正時代に撮影された古い写真を参考にされました。大きな暖簾がかかり、京町家の伝統的な意匠である「平格子」と「出格子」、「駒寄せ」、2階にはむしこ窓があったことが分かりました。屋根や外壁の修繕を丁寧に行い、「たくさんの方が楽しく使える、多目的なスペースをつくりたい」という想いから、表側の棟はひとつの大きな空間にしてギャラリーに、トオリニワをフリースペースに、和室はそのままの美しさが活かされています。



ギャラリーで座談会も開催

文化や人がつながる拠点に

改修から1年が経ちました。

少しずつ、お花の教室など趣味や地域の仲間が集い賑やかな声と笑顔が集まるようになり、井山さんの夢がたちになってきました。「地域の文化や人をつなげる拠点として、この場所が活かされれば」。井山さんの奥様は、行き交う小学生や新しく引っ越してきたご近所さんなど、出来るだけ多くの人に声をかけるようにされています。顔の見えるおつきあいが、人をつなぎ、地域をつなぎ、地域の景色へと紡がれていきます。

Information

京町家 井山 百芳軒
京都市中京区堺町通御池上ル
TEL&FAX (075) 221-4620



改修助成事業のご報告

京町家まちづくりファンドによる支援は、改修助成を始めた平成18年度から22年度までで、53件となりました。みなさまのご寄付によって、1つ1つの積み重ねが、大きな取組となっていることを実感しております。誠にありがとうございます。引き続き、平成23年度改修助成事業では、13件の物件を選定し、改修に対する支援をさせていただいております。平成23年度の取組の報告をさせていただきます。

改修物件見学会の実施



平成23年11月19日(土)、これまでにファンドへご寄付をいただいた方、及び当センターの賛助会員を対象に、改修中の物件見学会(西陣地域の3物件)を開催させていただきました。当日は、大雨であったにもかかわらず、16名の参加をいただきました。見学会ではオーナーから町家に対する想いを語っていただき、工事関係者の方から工事内容の説明をいただきました。みなさま熱心に工事の様子を見学されておられました。中には、これから町家の改修を考えておられる方が熱心に質問されたり、その後参加者同士で交流されるなど、非常に有意義な見学となったのではないのでしょうか。

平成23年度の改修助成物件

この他の物件も、改修工事が進んでおります。みなさま方のご支援をよろしくお願いいたします。



伊藤邸 (南区)

看板建築となっていた町家を改修され、住宅として活用されています。なお、平成24年4月3日(火)午後1時~5時まで江戸中期享保雛・古今雛の公開をされます。



田中邸 (右京区)

主屋を住宅、離れを宿として活用されています。今回の改修によって、景観重要建造物に指定されました。



五辻庵 (上京区)

店舗兼住宅であった町家を改修し、宿として活用されています。町家に泊まってみてはいかがでしょうか。



生駒邸 (上京区)

織屋建の町家を住宅として活用されます。お茶室も設けられる予定です。



先斗町通り (中京区)

通り景観の修景として、エアコン室外機カバー設置(11軒17台)が行われました。先斗町へ足をお運びの際は、ご覧ください。

京町家
まちづくりファンド委員会の
委員就任のお知らせ

(株)朝日堂 浅井國勝 代表取締役会長
(京都商工会議所常議員) が新たに委員
に就任されました。

京あるき in 東京 2012 に参画しました



平成24年2月25日(土)、26日(日)の2日間、東京神宮外苑にある京都市造形芸術大学外苑キャンパス内の教室を会場として、「京都景観・まちづくり展 いつかは暮らしてみたい京町家」と題した展示会を開催。京町家まちづくりファンド委員の水野歌夕先生の京都の路地を撮影された写真のパネル展示をはじめ、京町家に関するいろいろな相談にお答えする「京町家なんでも相談」、京町家の模型の展示など多彩な催しに2日間で延べ400名以上の方々にお越しいただき、京町家の魅力を堪能していただきました。京あるき in 東京ホームページ <http://www.kyoaruki.jp/>

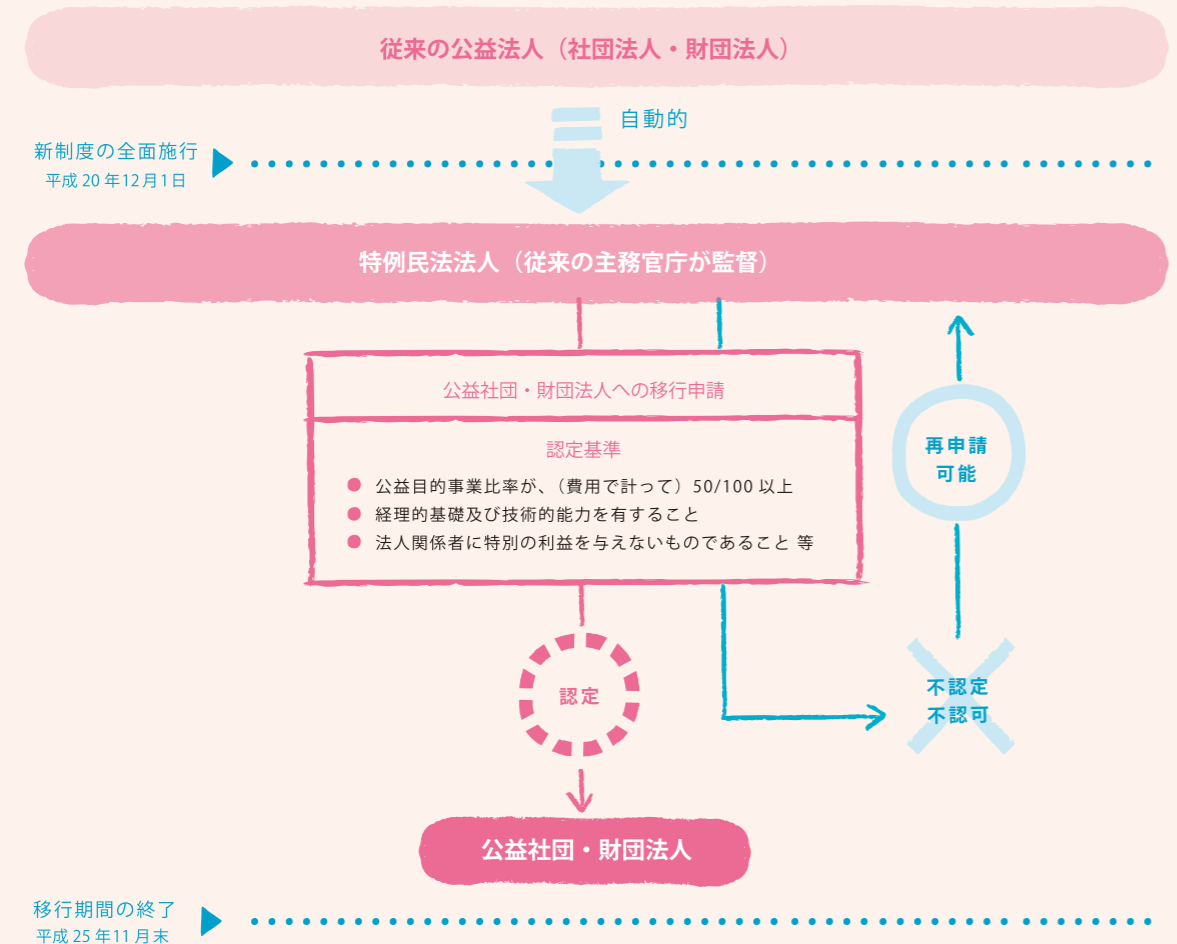
新公益財団法人制度とは

平成 20 年 12 月 1 日、民による公益増進を目指して「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」が施行され、従来からある財団法人（特例民法法人）は施行日から 5 年の間に公益社団・財団法人又は一般社団・財団法人のいずれかの移行申請を行うことになりました。

この制度により、当財団では公益財団法人への移行方針を固め、平成 23 年 8 月に移行認定申請を行い、現在、公益行政庁である京都府と調整を図っています。移行認定された場合は、財団に対する寄附金や譲渡所得がしやすくなるなど、税制優遇措置のメリットを活かした財団運営が可能になります。

認定基準 (認定法第 5 条) 公益目的事業を行うことを目的とするものであること。公益目的事業を行うのに必要な経理的基礎、技術的基礎を有するものであること。公益目的事業比率が 50%以上であることなどが定められています

「公益目的事業」の定義 (公益法人認定法第 2 条 第 4 号)
A 学術、技芸、慈善その他の公益に関する法律に掲げる種類の事業であって、
B 不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものをいう。



私と京都

京都 北山街協同組合 理事長 阪本 卓也

なぜか京都
なぜか洛北
なぜか北山 されど…



私 は京都生まれの京都市育ち、それも今でも職場は北山、生活も洛北エリア。

今年で半世紀を京都と共に歩んできた私は、幼稚園、小学校から大学を卒業する間、そして、今でも行動範囲 5km の男と言われ、この洛北エリアで全ての事を済ます。近辺には、当然友達も多く常に誰かに見られているような変に気になる毎日である。

幸か不幸か、視力も悪く人の顔を覚えるのが苦手ということであまり気にせず、日々を送っている。

京都人というのは、ホントに扱いづらい性分で、根っからの京都人である私もその中の代表になるのだろうか？自分では、京都人っていやらしいとか見栄はりだとか、裏があるなどと周囲から聞かされ、他人の事だと常に思っ生きてきたが、これってまさしく私の事？って最近実感するようになってきた。

私は、小学 3 年生から大学を卒業する間、ずっとサッカーに明け暮れ、それこそ、この洛北近辺での思い出というと主に友達と自転車で走り回っては、ボールを蹴った思い出がほとんどを占める。

府立大学やノートルダム女子大や工芸繊維大学のグラウンドは勿論、賀茂川の土手沿いや近くの公園がホームグラウンド。北山を中心に下鴨神社や上賀茂神社、国際会館から宝ヶ池や深泥ヶ池でもよく遊んだ覚えがある。

35 歳の時に独立して、自分が学生だった頃の北山エリアの残像（オシャレな？）と今後のエリアを持つパワーに、より大きな可能性を感じて、街に発信力をつけようと独立、でもバブルがはじけて下り坂。

今、周囲の人は口を揃えて言う。

「ホント、寂しくなりましたね。」

オシャレで贅沢な飾られた、有名建築が並ぶ北山は今、もうないも同然。

ただ、外観は変われど、何も変わっていない自然環境と文化が共有する北山は、今もこの先 50 年後も何も変わらずにあると思う。

なぜか、お偉い方が管理するために決めた行政区。

でも私にとっては、左京区であり北区でもある北山。

今も昔も、北山も洛北であり京都市にある北部の文化環境ゾーン。

今、私たちがやらなければならないのは、個の宣伝や個の力を発揮する事ではなく、地域の中での仕事、地域と共におこなう力や企画を協働し、5 年先の京都における洛北エリアの発展を北山の立場で考え発して活動・共有することではないかと考えている。

あえて言わせてもらいたい。

このエリアは、今も昔も京都の、いや「日本のおへそ」だから…。

スタッフのつぶやき



スタッフ F.K

図書コーナーを愛するヒゲの 3D ソフト使い。一眼レフと豆乳は必需品



毎号、楽しんで作成している「まちがいがし」。作中の京町家はパソコンの 3D ソフトで立体パーツをいろいろ作り、画像を組み合わせて描いています。

思えば、私が初めてパソコンで絵を描いたのは、今から四半世紀前。家庭用に販売された 8 ビットパソコンが普及し始めた頃でした。マイコン、PC-88、8 インチフロッピー、BASIC という言葉が聞かれた懐かしい時代です。

当時はペンタブレットなんて便利なものがなかったので、マウスやキーボードでカーソルを自在に操り連続のドットで曲線を描きました。表示色も 8 色しかなく、他の色は 8 色を一定パターンでタイルのように並べて再現しました。

今では、パソコンの性能は高機能を全て使いこなせない程、飛躍的に向上しましたが、当時の不便さがいまもいろいろを覚えてくれたような気がします。